

来週の「売り物記事」はこれ



2020年3月19日号 毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

国際女性デー対談 田嶋陽子さん×上野千鶴子さん

夕刊特集ワイド 24日(火)・25日(水)

3月8日の国際女性デーにあたって、英文学・女性学研究者の田嶋陽子さんと、社会学者の上野千鶴子さんが対談しました。三十数年ぶりの再会という2人は、互いの来し方や女性差別の現状について熱く語り合いました。テレビ出演や「慰安婦」問題について話した前編、国会議員などの一定数を女性に割り当てる「クォータ制」について意見を交わした後編の2回に分けてお届けします。

論点 中国のコロナ対策

オピニオン面 25日(水)

中国湖北省武漢市で確認された新型コロナウイルスは、世界的に感染が広がり、欧米諸国も相次いで厳しい対策を打ち出す事態になっています。1月に感染が急拡大し都市封鎖などの強硬措置をとった中国では、公表の遅れなどの問題も指摘されました。経済活動の低迷などに直面する習近平政権にどのような打撃を与えているのか、識者に話を聞きます。

更年期障害 生き方見直し 心のケアを

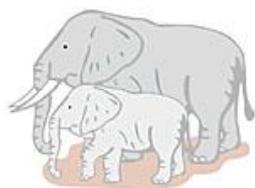
1面、社会面 25日(火)



女性は40代後半から50代前半の更年期を迎えると、気分の浮き沈みが激しくなりがちです。仕事で重い責任を担っても、心のケアをおろそかにするとうつ病に発展してしまう恐れもあります。シリーズ「女性のカラダノート」では、更年期で悩む女性が陥りがちな心の問題とケアの仕方について紹介します。

東京都が象牙の取引規制を検討

くらしナビ面 25日(水)



東京オリンピック・パラリンピックの開幕を控え、東京都は独自に象牙取引を規制できるかを検討する有識者会議を設置しました。密猟などのため生息数が減少しているアフリカゾウを保護するため、象牙の国際取引はワシントン条約で規制されていますが、日本政府は国内での取引を容認してきました。東京都はなぜ国とは別に独自の対策に取り組まなければならないのか。その背景について解説します。

愛犬と一緒に食べられるごはん

くらしナビ面 26日(木)

福岡市の獣医師、古江加奈子さんと管理栄養士、高月佑果さんが考案した「愛犬のための手づくり健康ごはん100」(小学館)が好評です。犬だけでなく飼い主も一緒に食べられるピラフやパスタなどは、彩りも豊かで、まさに「ごはん」と呼ぶにふさわしいものです。柔らかく、大きすぎず小さすぎず——。愛犬のための食事を手作りするコツを2人に聞きます。



論点 男性の育休

オピニオン面 27日(金)

「閣僚を辞めてから取れ」「いや、閣僚が取ることに意味がある」。小泉進次郎環境相の「育休」宣言は大きな賛否を呼びました。男性の育児休業の取得率について、政府は「2020年度までに13%」という目標を掲げていますが、現実には6%。なぜこうも浸透しないのでしょうか。男性の育休が家庭や職場、そして社会にもたらす効果について考えました。



「聖火の今」

社会面 27日(金)から



東京五輪の聖火リレーが26日、福島県から始まります。7月24日の開幕まで、約1万人のランナーが121日間かけて全国を巡ります。「Hope Lights Our Way (希望の道を、つなごう。)」をコンセプトに掲げる聖火リレー。各地でそれぞれの思いをともして走るランナーの姿やユニークなリレー法などを紹介し、「聖火の今」を連日伝えていきます。

JR 福知山線脱線事故から15年

1面、Sストーリー面 29日(日)



兵庫県尼崎市のJR福知山線脱線事故(2005年4月)で負傷した小椋聡さん(50)は昨年11月、「鉄道マン」を前に講演しました。事故直後の光景を描いたイラストを示しながら、あの日からの人生を語りました。訴えたかったのは、事故の背後には乗客一人一人の人生があり、その家族や友人らがいること。小椋さんが妻や仲間と共に歩んだ15年をたどります。

※ 都合によっては掲載日や内容を変更することがあります。